次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代　表　校　名 （ 連携大学 名 ）	東京医科歯科大学 （慶應義塾大学、国際医療福祉大学、順天堂大学、東海大学、 東京歯科大学、東京薬科大学） 計７大学
事　　業　　名	次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン
事　業　責　任　者	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科副研究科長、医学部長　東田修二

事　業　の　概　要

本事業では、①現場で顕在化している課題、②予防の推進、③新たな治療法の開発というがん医療のテーマを解決するため「専門的な多職種人材」を養成する。本事業の特色は首都圏の７大学においてチーム医療が実践できる多職種のがん専門医療人の養成プランを開発し、がんの予防、診断・治療、個別化医療、痛みのケア、サバイバーのケアなど全てのステージにおいて集学的治療が提供できる体制を我が国に構築することを目指す点にある。主要ながん種に加え、造血器腫瘍、小児がん、口腔がん、新規治療法開発なども対象とし、取り残される患者ゼロを目指す。本事業では歯学・薬学領域を含む独自の 14 の Working group(WG)を設置し、各校の強みを集結した共通コースによる教育を行うのも特色の１つである。これにより広く受講者を募り、多くの専門的人材を輩出し、地域中核病院等への配置が可能となり、がん医療の均てん化と質の向上に貢献できる。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○連携７校共通で設置の口腔がん・がん口腔支持療法に携わる医療者養成コース、先端医療技術を用いた個別化医療、レギュラトリーサイエンスを駆使し難治性がん克服戦略を立案し推進できる医療人養成コース、がんサバイバーを支える多職種医療人養成コースなど、独自性に富み、優れた内容のコースが計画され、集学的治療と多職種連携を基盤とした７大学それぞれの強みを活かした医療人育成プランを計画している点で評価できる。７大学の運営協議会の開催もあり、相乗効果が期待できる。

○開発されるコンテンツに関して、地域の壁を越えて他地区の大学等との間で、単位互換、聴講生の受け入れ等により共有を可能にする計画は評価できる。

○14 の WG には各校から選出されたメンバーが協働して質の高い共通教育コンテンツを構築・運用するために全校が連携すること及び、補助期間終了後も連携７校によるコンソーシアムを継続して、WG による教育コンテンツの共同改編など、事業を継続する具体的なプランを作成していることは評価できる。

○テーマに関する専門的な学修を体系的に履修することができるプログラムとなっている。

○医師以外の職種を養成する教育コースが設けられており、各職種のコース履修者が交流・合同参加する学修機会が設けられている。

○がん診療多職種と患者団体で構成される外部評価システムや、広報担当者を配置した成果の効果的な普及を計画している点は評価できる。

○アウトカムにがん診療専門資格が網羅されている。

●課題や対応策の設定、取組が総花的であり、首都圏特有の課題を解決するための人材育成プログラムとは言い難い。

●AI による病理診断が強みとして挙げられているが、未だ研究段階であり、実効性が懸念される。

●それぞれについて教育・研究・診療面での強みが分けて書かれていないため、強みがどのように取組に活かされているのかがわかりにくい。

●本事業はがん予防と緩和医療の人材育成を挙げているので、医療ビッグデータに基づいて評価したリスクをどのようにがん予防実践（生活指導、検査、処方）に結びつけるかを学生に指導する育成モデル開発を期待する。
●各テーマに関する大学毎の教育基盤体制を明確にし、教育プログラムの実行可能性を明らかにされたい。（例えば、テーマ②の「AI の原理を理解するがん専門医療人」の養成における、指導体制やインフラの状況。）
●「がん医療の高度化・均てん化」という目標へアウトプットが発展するのか不明である。
●アウトカムに「がん予防」に関する評価指標が示されていない。学会などとの連携を介して指標設定が望まれる。
●アウトカムで提示されている、１）専門資格の取得者数、２）個別化医療の実施件数、３）専門医療機関への派遣・配置人数に関して、具体的な数値目標が見受けられないため、教育効果を測れない懸念がある。
●シンポジウムなどのセミナー開催のみならず、「人材育成による地域の充足率が改善される」などのアウトカム（人材の活躍の場）の設定を期待する。
●各校 WG による自己評価、連携大学間・WG 間の相互評価、外部評価委員による評価という３段階の評価システムを計画しているが、連携大学間・WG 間の相互評価の実効性については疑問が残る。
●令和４年度の継続実績は評価できるが、本事業後の長期継続における金銭的な自立性が読み取れなかった。
●どのような次世代コンテンツの育成モデルを全国に普及させていくのかが不明である。
●がん予防に係る専門資格との連携においては、認定遺伝カウンセラー、遺伝性腫瘍専門医、臨床遺伝専門医などに限られている。
●連携大学共通のインテンシブコースで、多くの人材養成を計画している。